

認められたことが資料と共に示され、新理事、指名理事について異議なく承認された。

理事長 眞嶋 朋子(千葉大学大学院)
副理事長 簀持 知恵子(大阪公立大学大学院)
池亀 俊美(榊原記念病院)
稲垣 美紀(摂南大学)
宇都宮 明美(関西医科大学)
大江 理英(兵庫県立大学)
落合 亮太(横浜市立大学)
小泉 雅子(東京女子医科大学)
齊藤 奈緒(宮城大学)
竹原 歩(兵庫県立はりま姫路総合医療センター)
眞茅 みゆき(北里大学)
三浦 英恵(日本赤十字看護大学)
山中 源治(日本赤十字看護大学)
鷲田 幸一(兵庫県立尼崎総合医療センター)
坂本 明子(指名理事/千葉県立保健医療大学)
山内 英樹(指名理事/東邦大学)

第4号議案 第21回、第22回学術集会長の選任について

議長より、9月13日の理事会にて第21回学術集会長に三浦英恵先生(共立女子大学)、第22回学術会長に齊藤奈緒氏(宮城大学)が承認されたことが報告され、議場にその承認が求められたところ、異議なく承認された。

【 報告事項 】

(1)令和3年度定時社員総会報告

議長より資料が示され令和3年度定時社員総会報告が行われた。

(2)総務報告

齊藤奈緒総務担当理事より、資料示され、。

令和3年度末の会員数は、個人会員 1,254 名、賛助会員1名であり、前年同時期とほぼ同数である。
なお、定款第12条により、来年7月末には会費を2年間滞納した会員は自動的に資格を喪失する。

(3)理事会報告

議長より、資料をもとに、令和3年度の理事会開催状況について報告がなされた。

(4)令和4年度事業計画・予算

各委員長より、資料をもとに、標記報告事項について以下のとおり報告がなされ、はじめに令和4年度の事業計画について、各委員会長より以下の通り報告がなされた。

1) 学術委員会

1. 循環器病に関わる看護職者の知識の向上に資する教育セミナーの開催
 - (1) ZOOM ウェビナーを活用したオンラインセミナーの開催 2回 2023年2月(予定)
2023年7月(予定)
在宅医療、心リハ、緩和ケア、意思決定支援、倫理調整、循環器併存疾患などに関するテーマを検討する。
 - (2) 次年度に向けてセミナー内容の体系化の検討(クリニカルラダーレベルに合わせた内容など)
会員に対するニーズ調査の結果をもとに検討する
2. 海外の循環器看護に 関連する会との交流
 - (1) GCNLF: The Global Cardiovascular Nursing Leadership Forum への参加(2021年10月頃開催)
 - (2) ACNAP: Association of Cardiovascular Nursing & Allied Professions への参加
(2022年6月頃開催)
 - (3) 上記交流内容を会員へ広く周知する(学術集会やホームページの活用)
3. 循環器看護領域の学術的基盤の構築と発展に向けた検討
 - (1) 循環器看護の定義案をもとに循環器看護のコア・コンピテンシーの作成を検討する。
目的: 多様化する循環器医療において、循環器看護の専門職の育成に寄与する。

2) 学会誌編集委員会

1. 日本循環器看護学会誌年2回(第18巻第1号, 第18巻第2号)の発行、
第19巻第1号の発刊準備
2. 電子投稿システム・査読システムの運用の評価と改善(継続)
3. 専任査読委員体制強化(継続) テーマ、研究方法論 分析手法等の専門性に対応可能な体制
作り
4. 投稿原稿の活性化及び質向上に向けての対策の検討(継続)
 - ・第19回学術集会での委員会セミナー(投稿論文作成や査読の受け方等)
 - ・投稿規定(投稿者の条件、著作権等)の検討
 - ・学会誌オンライン化へ向けた移行準備

3) 政策・診療報酬委員会

1. 2024年度診療報酬改定にむけて循環器看護分野からの医療技術、診療体制等についての提案
準備
2. 日本看護協会の心不全患者の療養支援に関する実証事業に参加
3. 医療保険に関する外部機関への会議等の出席、および渉外(看護系学会社会保険連合等)

4) 広報委員会

1. 学会ホームページの改修・会員専用コンテンツの充実
2. 会員の研究・臨床実践活動に関する広報活動推進
3. ニュースレターの発行

5) 倫理委員会

1. 申請のあった研究に対して、規定に基づき倫理審査を行う
2. 個人情報保護に関する問題が生じた場合に対応を行う

3. 本学会の研究に関する「利益相反指針」を運用する
4. 一般社団法人日本循環器看護学会倫理綱領に関する問題が生じた場合に対応を行う

6) 国内交流委員会

1. 本法人の国内の循環器看護関連法人・学会・研究会などを中心とした諸団体との交流を図る。
 - (1) 関連法人・学会・研究会との樹陰シンポジウムの企画、およびジョイントシンポジウム開催の承認、座長の推薦等を行う。
 - (2) 新たな関連法人・学会・研究会とのジョイント・シンポジウム開催後の座長、演者の意見のもとに今後の交流について検討する。問題が生じた場合は、直ちに委員会で検討し、解決を図る。
2. 関係諸団体との本法人の窓口となる。

7) 選挙管理委員会

1. 法人第 6 期における選挙にむけた計画

8) 総務委員会

1. R3 会員ニーズ調査に基づく本会事業見直しに伴う委員会組織・業務の整理および各委員会の活動支援、調整
2. 理事会、社員総会、会員総会の運営補助
3. 会員獲得・会員情報管理に関する事業
4. 規定類の評価・見直し：特に学会・学術集会関連情報のオンライン化と関連規定の検討・見直し
5. 若手研究者の研究助成事業の実施・評価

事業計画の報告に続き、令和 4 年度予算案について齊藤総務委員長より、収入 29,687,949 円、支出 31,252,293 円、収支差額 1,564,344 円と資料と示された。また、各委員会の予算案についても報告が行われた。

(6) 第 19 回循環器看護学会 学術集会報告

瀬戸奈津子学術集会長より、資料をもとに、開催直前の報告がなされた。

【第 19 回学術集会】

■会期：2022 年 10 月 1 日(土)・2 日(日) *ライブ配信無し

【オンデマンド配信】2022 年 10 月 8 日(土)～2023 年 1 月 10 日(火)

■会場：枚方市総合文化芸術センター、関西医科大学 看護学部棟

■テーマ：臨機応変

■ホームページ：<http://jacn2022.jp>

■後援：学校法人 関西医科大学、枚方市、公益社団法人 大阪府看護協会

※開会式、会長講演、特別講演、教育講演、シンポジウム、一般演題(口演・示説)、交流セッション、最優秀演題審査会、市民公開講座、モーニングミニコンサート、ランチョンセミナー、コーヒープレイクセミナー、閉会式(最優秀演題表彰式)は現地開催となる。

※演題登録期間をぎりぎりまで延長したため、その後の進行が非常にタイトな状況である。

※プログラム集は 9 月 22 日～27 日までに参加者の元へ郵送予定である。(参加登録者には 9 月 16 日に抄録集をウェブサイト閲覧が可能となる予定)

※開催直前に当初の見積もりより、当日の人件費が増える可能性が生じたため、多くの協力委員のご助力でコストを抑えるよう工夫している。

3 その他

(1)第 20 回学術集会長 ご挨拶

山田緑学術集会長より挨拶があり、第 20 回学術集会について説明された。

【第 20 回日本循環器看護学会学術集会 概要】

会期:2023 年 9 月 16 日(土)、17 日(日)

テーマ:CONNECT~循環器看護の力

方法:オンライン開催(ライブ及びオンデマンド配信)

プログラム:学術集会長講演、基調講演、特別講演、教育講演、シンポジウム、交流集会、最優秀演題審査会、循環器病研究振興財団研究発表会、口演、共催セミナー等

【特別講演】天野恵子先生(静風荘病院 特別顧問):「性差医学・医療と循環器疾患」

弓野大先生(医療法人社団ゆみの理事長):「心不全患者の Life を支える在宅医療」

【教育公演】山内 豊明 先生(放送大学教養学部教授、名古屋大学名誉教授):

「明日からのケアにつなげるフィジカルアセスメント」

※関連学会等とのジョイントセッションを検討し、打診中である。

※2022 年 10 月より、SNS 等を活用しながら積極的に広報活動を行っていく予定。

(2)会員総会の資料について

今年度も、COVID-19 拡大により学術集会が WEB 開催となったため、会員総会も WEB 開催とし、資料を一定期間、学会ホームページ(会員専用閲覧ページ)に公開する予定である。

以上により Web 会議システムを用いた社員総会は、終始異常なく、全ての議案が終了したため、議長は本総会の閉会を宣言した。

以上、議事の経過の要領及びその結果を明確にするため、本議事録を作成し、議長及び議事録署名人が次に記名押印する。

令和 4 年 9 月 28 日 一般社団法人日本循環器看護学会 定時社員総会

議 長 眞嶋 朋子 印

議事録署名人 若林 留美 印

議事録署名人 山田 緑 印